

令和5年度 教頭講話①

7月20日(木)に、教頭講話が開催されました。

本校定時制では、各学期の最後に、教頭先生から講話をいただいて、学期の締めくくりとしています。

第1回は、「ともに働き、生きる ～桐商での学びを通して～」という題で講話をいただきました。

ラーメンをお店でいただくときに、ラーメンが食べられるのは、お店の人だけでなく日本中、世界中で働く誰かと知らず知らずのうちにつながっていることを知り、お金を出せば当たり前には食べられるのではなく、お金を出して「ありがとう」の気持ちをもってこそいただけることを理解することができました。

そして、桐商定時制では、「ふれあい」という教育目標を大事にして、「ふれあい」を通じた人格形成を築き上げていくことが、世界中の人たちとつながり、関わりを持ち、力を合わせて、ともに働いて生きることにつながるのだと理解することができました。

そのためにも、今の定時制の日々を大事にしなければ、と思いました。そして、1学期の最後に、学校生活のなかで、何を学んだか？どのような学びを積み重ねてきたか？を振り返るとともに、この夏休みは、勉強や仕事、部活など、「何になりたいか」よりも「何をしたいか」を実践してみる機会にできるのではないのでしょうか。

最後は、教頭先生の英語で締めくくっていただきました。

ひとつのものはいろいろな人の仕事でできている

(問い)

お腹がすいたのでラーメン店に入り、ラーメンを頼んだとします。少しすると注文したラーメンが出てきました。

どんな人のおかげで、ラーメンはあなたの目の前にあるのでしょうか？



終わりに (アレンジして)

does not consist in gazing at each other, but in looking together in the same direction.

とは、お互いを見つめ合うことではなく、**ともに同じ方向を見つめること**である。

違いを認め合いながら、ともに同じ何かを探し、生み出せるよう努力したい

=協働

Thank you for your Attention.

